Kansai Rosai Hospital

関西ろうさい病院 広報誌

さぷりめんと

2023-Feb
No.63

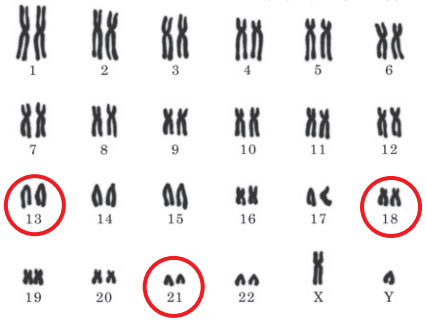
NIPT（無侵襲的出生前遺伝学的検査）について

産婦人科　後藤　摩耶子

NIPTとは？

NIPTとは、新型出生前診断の一つです。この検査はお母さんの血液中に含まれる、赤ちゃんのDNAを調べることで、赤ちゃんがダウン症（21トリソミー）などの染色体異常による疾患にかかっているかを調べることが出来ます。

（図 1）染色体



染色体とは？

人間には遺伝子を長く連ねた染色体が全部で46本あります。染色体は、図1のように、長さの順に1～22の番号がある「常染色体」と、性別に関係する「性染色体」とで構成されます。染色体は正常で2本ですが、なんらかの異常により、染色体が3本（トリソミー）や、1本のみの場合（モノソミー）があります。それらの場合は、赤ちゃんが疾患を有している可能性があります。

NIPTの対象となる疾患とは？

NIPT検査により、図1の赤丸で囲った①ダウン症候群（21トリソミー）、②エドワーズ症候群（18トリソミー）、③パトウ症候群（13トリソミー）の3つの疾患を持つ可能性を調べることができます。例えば、NIPT検査を受け、21番目の常染色体が、3本あるトリソミーの場合は、ダウン症候群という先天性の心臓・消化器疾患、知的障害を有する染色体疾患の可能性があることがわかります。

NIPTの対象者と検査を受ける時期について

①高年齢の方。
②ダウン症候群（21トリソミー）・エドワーズ症候群（18トリソミー）・パトウ症候群（13トリソミー）の赤ちゃんを妊娠・出産した経験がある場合。
③カップルのいずれかが、上記3疾患に関与する染色体変化を持っている場合。
④胎児超音波検査や母体血清マーカー検査などで、赤ちゃんが上記3疾患の可能性が高いと指摘された場合。
当院では10～14週頃までに受検いただいています。週数の余裕をもって受けていただくことをお勧めします。

NIPTの結果・精度について

陰性的中率（陰性であることが正しい確率）は99%以上と非常に高い検査ですが、陽性的中率（陽性であることが正しい確率）は80～95%とばらつきがあります。

当院で検査されて陽性・判定保留になった場合は、尼崎総合医療センターにて遺伝カウンセリングを受けていただき、確定検査のためには羊水検査を受けていただく必要があります。

NIPTの検査するには

NIPT検査は、日本医学会の「出生前検査認証制度等運営委員会」にて認定された、NIPT実施医療機関でのみ受検が可能となります。検査の値段は、前後のカウセリングも含めて約10万円程度です。詳しい検査内容については、NIPT外来等にてご相談ください。

関西ろうさい病院の理念　●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

Kansai Rosai Hospital

関西ろうさい病院 広報誌

さぶりめんと

2023-Feb
No.63

脳神経外科で行う新しい「痛み・しびれ」の治療

脳神経外科・脳神経血管内治療科
豊田　真吾

日本脳神経外科学会や日本頭痛学会などの専門医・指導医がいる病院では、最新の予防治療・急性期鎮痛治療を提供し、先進的治療を全国的に啓蒙しています。今回は、その中から3つの疾患に関する治療を紹介いたします。

1. 片頭痛の新しい治療：片頭痛注射予防薬

【図１：片頭痛注射予防薬】

片頭痛は有病率の高い疾患で（30代～40代の女性の5分の１）、患者さんの生活の質を大きく低下させるため、専門的な治療が必要とされています。

昨年より片頭痛注射予防薬（図１）が保険適用され、当院を含め国から指定された病院限定で処方が可能となりました（当院は２０２１年8月から専門外来を開設）。この注射は、片頭痛発作時に過剰に発現される「CGRP」という、炎症や血管拡張作用などを誘発する神経ペプチドの働きを抑える薬となります。この薬が使用できるようになったことで、治療の幅が広がり、頭痛に悩む患者さんの悩みに応える環境整備が図られつつあります。

2. 三叉神経痛の新しい治療：ガンマナイフと鍵穴手術（Keyhole surgery）

顔の半分や口の中が激しく痛む三叉神経痛の患者さんは、比較的多くいらっしゃるのですが、そのうち適切な治療を受けている割合は少ない、と言われております。治療方法としては、主に薬物治療・ガンマナイフ・手術治療の３つがあり、全ての治療から最適な解決法を提案できる病院は限られています。薬物治療が無効の場合は、ガンマナイフ（図２）あるいは、「鍵穴手術（keyhole surgery）」による微小血管減圧術（図３）を行います。鍵穴手術とは、開頭範囲を可能な限り小さくして行う低侵襲手術です。完全無剃毛で行えることもあるため、早期の日常生活復帰も可能となります。

【図２：ガンマナイフ】

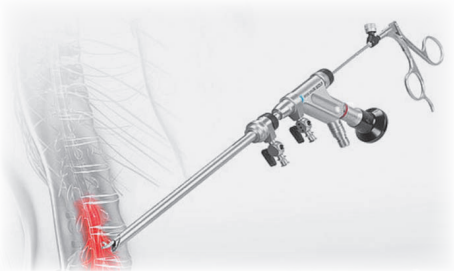
【図３：「鍵穴手術」（Keyhole surgery）】

【図４：外視鏡システム】

3. 脊椎・脊髄疾患の新しい治療：外視鏡・内視鏡

高齢化社会が進むにつれて、手足の痛み・しびれに悩まれる脊椎・脊髄疾患の患者さんが増加しています。脊椎・脊髄疾患は、脊椎の体重を支える「支持要素」を温存するため、低侵襲な「外視鏡システム」（図４）を活用した手術が有効です（当院は２０１８年から実施）。

また、より早期の社会復帰が可能な「脊椎内視鏡手術」（図5）に積極的に取り組む施設もあります（当院は脊椎内視鏡センターを来春開設予定）。



【図５：内視鏡脊椎手術】

脳疾患に関する詳しい治療方法などについては、
脳神経外科専門医までご相談ください。

独立行政法人
労働者健康安全機構
関西ろうさい病院
尼崎市稲葉荘3－1－69
TEL 06－6416－1221(代)
発行人　林　紀夫
編集人　足立　崇